

平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

1. 学校概要

学校名 福井県勝山市立勝山北部中学校

種別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 高等学校 ☐ 中高一貫教育
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他（ ）

住所 〒911-0045

福井県勝山市荒土町伊波 21-2

E-mail : hokubutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website : <http://hokubutyu.mitelog.jp>

児童生徒数：男子 73 名 女子 56 名 合計 129 名

児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 担当者 ※公表しません

職 名： 教諭

氏 名： 大塚 雅洋 (男・女)

E-mail : e-otsuka@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※学校の共用メールアドレスをご記入ください。共用メールアドレスがない場合、個人メールアドレスでも可。

3. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（地域活性 ）

3. 活動内容

1. はじめに

本校のESDは、「北中まちづくりプロジェクト」と銘打ち、ESDカレンダーをもとに全校体制で取り組んでいる。主な活動は、「環境保全」と「地域活性」である。プロジェクトの目的は、大人になっても自分達が住み続けたい勝山市を目指すことである。そのため、『勝山を美しく、元気に、有名に』というコンセプトのもと、各学年で「北中まちづくりプロジェクト」に関わる活動に取り組んでいる。

本校は、過去に県のNIE実践校であった経歴から、メディア（新聞・ニュース）の活用に対して職員、生徒の意識が高い。話題になっている記事やニュースについて自分の考えを持ち、それを周りの人に分かりやすく伝える活動をしている。これは、地域とのつながりを大切にし、自分が出来ることは何かを考え、行動を起こすきっかけとなる。北中まちづくりプロジェクトで取り組んでいることを地域社会に積極的に情報発信し、中学生が地域社会に主体的に関わり、自分の力で未来を拓いていくことができる生徒を目指している。

2. 実践内容

北中まちづくりプロジェクト2016 活動報告

	1 学年	2 学年	3 学年
		・クリーンアップ九頭竜川に保護者と参加	
5 月	・遠足で三国に行き、勝山と三国を比べる活動	・金沢遠足で金沢土産を購入し、勝山PRについて考える ・外国人に、英語で勝山をPR	・クリーンアップ九頭竜のゴミの分析
6 月	・恐竜博物館を見学し、職員から説明を聞いて、勝山の魅力について考える ・NPO法人まちづくり勝山主催による養蚕の見学	・NPO法人まちづくり勝山主催による養蚕の見学	・雪室の見学をし、雪だるま財団の方からの講話を聞き、勝山の魅力づくりについて考える ・NPO法人まちづくり勝山主催による養蚕の見学
	・ユニクロが実施している「届けよう、服のチカラ プロジェクト」に参加し、校下の小学校と連携し、環境教育・国際理解を深める（～9月末まで）		
7 月 ・ 8 月	・勝山夏まつりで生徒が考案したエコバッグを販売 ・環境保全活動基金活動の実施		
9 月		・コカナダモの分布調査・駆除活動	
	・学校祭で、ゆめおーれ勝山の方に来ていただいて繊維を使った体験活動を実施 ・学校祭で、ケイテ株式会社 代表取締役社長 荒井由泰氏を招いて、勝山の繊維産業の歴史とまちづくりについての講演会を実施 ・資源回収を実施		

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・校下にある福祉施設において所内の清掃活動と入所者との交流を通して、接し方を学ぶ ・奥越青少年自然の家で自然に親しむ体験活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「勝山の魅力再発見」で勝山ジオパークを学芸員の方から説明を受け、市内の散策と「ゆめおーれ勝山」の見学 ・ケイテー株式会社の織物工場の見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行で、白川文字と勝山市のPRを英語で外国人に発信
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・市の催し物（勝山年の市）において、北中まちづくりプロジェクトと勝山の魅力をPRし、PRグッズの販売体験を実施。また、地域の方が出展したお店の手伝いを行う。 ・環境保全活動基金活動の実施 		
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動を地域の雪祭り（鹿谷雪まつり）で報告 ・生徒が新しくデザインしたクリアケースを市の祭礼（勝山左義長まつり）で販売 ・環境保全活動基金活動の実施 		
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・活動で得た基金を校下小学校へ分配 		

（１）「勝山を美しく！」

＜実践１ クリーンアップ九頭竜に参加！＞

今年度も市が開催する「クリーンアップ九頭竜」に２年・３年の生徒と保護者が参加した。今回は８回目の活動になる。毎年、同じ場所でクリーンアップを行っており、回収されたゴミを分別して比較すると、空き缶やペットボトルなどのゴミの量は少しずつ減少していることが分かった。しかし、ビール缶やアルコール飲料、コーヒー缶が目立った。九頭竜川は、福井県や勝山市を代表する川である。大人の意識付けを変えていくため、このような清掃活動を継続していくと同時に、活動の様子を本校のblogや新聞などのメディアを利用して発信していく必要があることを学んだ。



＜実践２ NPO法人まちづくり勝山主催による養蚕の見学＞

明治～昭和の初めにかけての勝山は織物産業で栄え、勝山市では養蚕が盛んであった。しかし、人絹などの合成繊維の普及により、養蚕や絹織物産業が衰退したため、現在では、資料を通して勝山の繊維産業の歴史を知るだけである。そこで養蚕を復活させようと取り組むNPO法人まちづくり勝山の協力を得て、実際の葉蚕を見学する機会を作ることができた。NPO法人の職員から、エサの桑の葉を用意するまでの大変さや２万頭の蚕で絹織物ができるなど、養蚕に関する知識を得ることができた。



＜実践３ コカナダモの駆除活動＞

温川の流域には在来種のバイカモが点在して群生する。２年生では、そのバイカモが生長できる環境を整えるため、コカナダモの駆除作業やゴミの回収作業に



取り組んだ。この活動は、地域の方（荒土町ふるさとまちづくり協議会）と連携して行った。毎年取り組んできた活動の結果、バイカモが繁茂する面積は増えてきたが、川底には空き缶やビニールなどのゴミが多くあった。よりよい環境づくりに励む必要があることを学ぶことができた。また、活動中、バイカモの周囲で、サワガニや小さい魚が群れていたことから、バイカモを中心に生き物の生態系が整ってきたことが確認できた。

<実践4 セイタカアワダチソウの駆除活動>

日本の在来種の植物が安心して生長できる勝山本来の環境を保全していくため、セイタカアワダチソウの駆除活動を行った。この活動は、2年生が校区の2小学校の高学年と連携し（例年は3小学校と行っている）、合同で駆除活動に取り組んだ。活動後は、勝山本来の美しい自然を取り戻すため、自分たちができることを考えた。



（2）「勝山を元気に！」

<実践1 学校祭の体験活動で勝山の魅力発見！>

勝山市は繊維産業が盛んなまちである。そこで、ふるさと勝山についてもっと知るために、市内で大きな織物工場を持つケイター株式会社の代表取締役社長荒井由泰氏を招いて、勝山の繊維の歴史について後援をしていただいた。その後、ゆめおーれ勝山の方をゲストティーチャーに迎えて全校生徒を対象に繊維での体験活動を行った。45分ほどの体験活動であったが、どのグループも意欲的に取り組み、繊維を身近に感じる事ができた。

後日、2年生は学芸員の方と市内の史跡名所を見学して魅力を発見するとともに、繊維の歴史について学び、魅力を発信しようと意欲を持つことができた。



【学校際での体験活動の様子】



【2年生の織物工場見学の様子】

<実践2 “届けよう服のチカラ”プロジェクト>

「“届けよう服のチカラプロジェクト”」とは、ユニクロが行っている活動で、家庭で眠っている着なくなった子ども服を回収し、世界中で服を本当に必要としている人々（難民の方など）に届ける活動である。

STEP1 ユニクロ社員による出張授業（6月14日）

- ・ユニクロの社員が学校を訪問し、講師となって出張授業を実施。

STEP2 校内・地域への呼びかけ（出張授業後～10月）

- ・代議委員会を中心に回収ボックスを作成。
- ・校区の小学校を訪問（7月）。地域にチラシを配布（7月）。

STEP3 回収・発送（～10月末まで）

- ・子ども服を回収。段ボール箱につめて発送。

STEP4 報告（1月下旬）

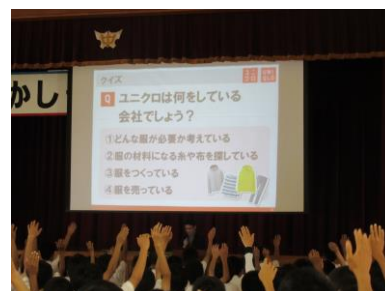
- ・校内や地域に活動成果を報告。

この活動を通じて、次世代を担う子どもたちが、国際問題や地球の環境問題に関心を持つだけでなく、服のチカラを知り、自分たちにもできる社会貢献があると気づくきっかけになればよいと考え、昨年度に引き続き、今年度も参加した。

地域に参加を呼びかけ、その効果が回収量という形で目に見えて表れることで、地域からの期待、地域への貢献、地域との連携といったことを生徒自身が感じることができた。

STEP1 ユニクロ社員による出張授業（6月14日）

ユニクロの社員を講師として学校に招き、出張授業を行った。講師の話聞く前の生徒は、普段着ている服について、自分たちを守っているという認識は低かった。しかし、出張授業の中で難民の方々の様子などを詳しく説明して下さったことで、服が持っているチカラについて深く考えようとする姿勢が見られ、服が持つ役割を再認識することができ、家族や親戚に子ども服の回収を呼びかけようとする姿勢が見られた。



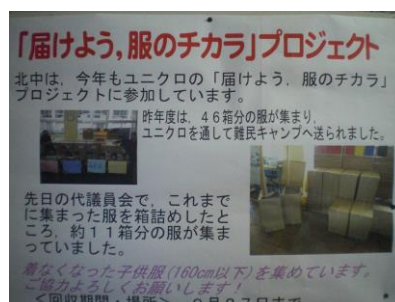
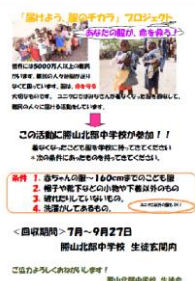
STEP2 校内・地域への呼びかけ（出張授業後～10月）

生徒会と代議委員会を中心に、子ども服の回収を呼びかけるチラシを校区の3つの小学校に配布した。また、出張授業後、校内にボックスと掲示コーナーを設置した。自分たちだけでなく、周りの方々にもこの活動を知ってもらうために、校区内の小学校と連携したり、資源回収に合わせてチラシを作成して地域の家庭に配布し、呼びかけたりした。



【小学校で子ども服の回収を依頼
【小学校へ回収箱を渡す様子】

する様子】



【地域に配布したチラシと校内の掲示コーナー】

STEP3 回収・発送（～10月末）

資源回収にあわせて子ども服の回収を地域に呼びかけた結果、たくさんの子ど

も服が集まり、生徒たちは達成感を味わうことができた。また、校区の3つの小学校と連携して回収を行ったことで、小学校の児童にも北中の取り組みをPRすることができた。全部で段ボール箱21箱分回収することができ、生徒たちは世界の人々の役に立つことにやりがいを感じることもできた。



【回収した子ども服】



【全部で段ボール箱21箱分回収】

STEP4 報告（1月下旬）

全ての学校で活動が終了し、ユニクロから難民キャンプの様子をまとめたフォトレポートが送られてきた。それを基にして、校内に掲示コーナーを設置し、活動報告を行った。生徒たちは、「こんな風にして服が届けられるんだ」と興味を持って見ていた。



【難民キャンプの様子をまとめたフォトレポート】【活動の成果を校内に掲示】

<実践4 地域に中学生のチカラを>

勝山市では、毎年1月下旬に「年の市」が行われ、勝山市内の団体が多くのお店を出して生活用品や食料品を販売する。そのイベントに参加した際、本校区内の地域の方が出店していた。店の人手が足りず、思うように販売できていない様子であったため、本校の活動（勝山PRグッズ販売）に参加した生徒の一部を派遣し、販売の手伝いを行った。勝山PRグッズの販売経験を活かして、道行く人に声をかけて多くの商品を販売した。



（3）「勝山を有名に！」

<実践1 勝山をPR！>

これまで、生徒会執行部が中心となって勝山の魅力をPRするためのグッズ（ステッカー、クリアファイル、エコバック、タオル）を制作してきた。今年度後期の執行部生徒から、「古くなったクリアファイルのデザインを新しくしよう」という意見が上



がり、全校生徒からデザイン案を募集し、生徒会が複数のデザインを組み合わせ、勝山の四季をPRするクリアファイルを制作した。

3年前、中学生がふるさと勝山の良さをPRするための活動を行っていることを地域に発信するため、『北中まちづくり法被』を制作した。今年度は、本校の「北中まちづくりプロジェクト」の取り組みを地域に強く発信するため、北中まちづくりプロジェクトのスローガン「勝山を美しく、元気に、有名に」をデザインしたのぼり旗を制作した。グッズ販売では、テント横に掲げたことで、多くの市民が立ち寄ってくれるなどPRに役立った。



【新しくデザインしたクリアファイル】



【のぼり旗】

制作した勝山PRグッズは、市や地域のイベントや祭礼で販売した。販売を行ったのは以下のイベントや祭礼である。

- ・勝山 夏まつり（8月中旬）
- ・勝山 年の市（1月下旬）
- ・鹿谷 雪まつり（2月上旬）
- ・勝山左義長まつり（2月下旬）

販売に向けての準備として、生徒会役員が全校生徒に販売ボランティアを呼びかけた。毎回20名近くの生徒が集まり、勝山PRグッズの販売とともに、本校が継続して取り組んできた環境保全活動や勝山の良さをまとめたチラシを配布した。売り上げたお金を環境保全活動に役立てるために、校区の小学校に分配した。

3. 成果と課題

北中まちづくりプロジェクトでは、勝山市の本来の自然環境を取り戻すための環境保全活動と勝山の魅力再発見、そして、勝山市の良さを外部に発信する活動に継続して取り組んできた。環境保全活動では、小中学校が連携し、セイタカアワダチソウやオオキンケイギクなどの外来種駆除をしてきた結果、空き地以外の場所では、外来種の広がりが徐々に押さえられてきた。また、本校が環境保全活動に取り組んでいることは、地域に広く知られており、地域で外来種の駆除活動をする際には、中学生の参加を求められるなど、地域と学校との協力関係ができてきた。これは、これまでの活動の積み重ねの成果であり、今後も継続して行うことで、地域と学校との協力関係を強化していきたい。

まちづくりプロジェクトに取り組む上で、地域の良さを発見することは、とても重要である。小学校の社会では、地域学習を中学年で取り組んでいる。しかし、勝山市全体の良さについて調べる学習活動を行うところまではできていない。中学2年生で、勝山市内のジオパークを巡り、勝山市ができた歴史的な背景や地理的な背景に触れたことは、自分たちが知らなかった勝山市の良さをみつけ、勝山市が誇れるものは何かを考えるきっかけとなった。

勝山PRグッズの販売は、単にPRグッズを販売するというだけでなく、自分

たちが取り組んでいる北中まちづくりプロジェクトを説明し、自分たちの活動に共感してもらう必要がある。そのため、販売経験を多くこなすことで、プレゼン技術の向上が見られた。また、中学生が地域の中に参加していくことで、地域の方々との交流が生まれ、「地域のために何かをしたい。」という感想が見られた。

次年度以降、中学生が地域のためにできることを企画し、積極的に関わっていくことを計画している。そのためには、北中まちづくりプロジェクトの原点に立ち戻って、地域のためにできることを議論していく必要がある。各学年において、中学生の視点からふるさを見つめ直して、勝山のよさについて情報発信と地域貢献の活動を行っていききたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）